

話し言葉における「テ形」

三枝 令子

要旨

本稿では、話し言葉におけるテ形の用いられ方を観察した。分析の結果、話し言葉では、書き言葉に比べてテ形が状態性の用言に接続することが多く、テ形の基本的な用法である「継起」の意味から離れた使い方も多いことがわかった。状態性用言に接続するテ形としては、「なくて」という形容詞、名詞述語の否定形や、「提題」用法のテ形が多かった。また、話し言葉では、書き言葉と異なり、テ形が発話末に用いられることも多い。しかし、話し言葉の発話中と発話末とをくらべると、テ形の接続する用言の分布に大きな違いはなかった。これは、話し言葉に特有の、繰り返し、倒置、言い差し、言いよどみなどの影響によると考えられる。しかし、発話末においては、「とか言って。」「たりして。」といった話し手の主張をぼやかす表現が発話中より多く見られた点が注目される。

キーワード：テ形 文末の「て」 とか言って たりして

1 はじめに

近年、話し言葉の分析が活発に行われるようになってきた。これには、コンピュータによる音声処理の必要性という実際的な理由、また、コミュニケーション能力を重視する言語教育のあり方も影響していると考えられる。実際、話し言葉は、繰り返し、倒置など、従来の書き言葉をもとにした文法とは異なる側面を持っている。また、これまでの活用の考え方、品詞分類からははずれてしまう事象、たとえば、「から」「けど／が」「たら」等の終助詞的な用法もある。ただ、話し言葉の分析に際しては、書き言葉におけるふるまいとは異なる点が注目され、あたかも異なる用法のように扱われて、書き言葉、話し言葉を一貫して扱う解釈は少ないように見受けられる。本稿では、日本語にとって重要かつ基本的な活用形である「テ形」を取り上げて、話し言葉で「テ形」がどのように用いられているか、従来の書き言葉の分析を土台に考えてみたい。本稿では、まず、「テ形」の働き、用法を確認し、次に、それら書き言葉における用法と話し言葉における用法とに違いがあるか、あるとすればどのような点が異なるのかを見ることにする。

2 連用形の二つのタイプ

連用形には、中止形（「書き」）とテ形（「書いて」）の二つの形がある。この二つの違いは、中止形は継続を表せず、テ形は、動作がすでに行われていることを示す点にある。たとえば、動詞の複合形では、中止形は動作のありようを説明し、テ形は前の動作の後に次の動作を加えることを意味する（「出し入れする」と「出して入れる」）。テ形を使った「読んでみる」「書

いておく」「食べてしまう」等の複合動詞は、テ形の述語のあり方を規定している。また、中止形はテ形と異なり、命令を表さない。命令にするためには、次のように接頭辞の「お」が必要になる。

- (1) 早くお食べ。
*早く食べ。
早く食べて。

しかし、「テ形」が叙述性を失うこともある。たとえば、「にとって、対して、関して」等の固定化した表現がそれである。さらには、名詞性を示すこともあり（「見ての通り」「見ての楽しみ」「傘をさしての帰り」）、「読んではいけない」「せいてはことをし損じる」といった表現も、テ形の名詞性が現れていると見ることができる。また、副詞的な「決して」「かえって」「あえて」「往々にして」等も叙述性が失われていると言える。

3 書き言葉における「テ形」の研究

松田（1985）は、ある言語形式の用例全体の分布のあり方が、その形式の実際の言語使用を反映するという考えに立って、テ形、連用形、「と」の性質を明らかにしようとした。そして、この三つの形式は、基本的に、これらの形式の直前に位置する用言が動作性のものであるか、状態性のものであるかによって分別されると考えた。なぜなら、状態性、動作性は、アスペクトを示すため、完了のアスペクト的性質を帯びているこれらの形式にとっては重要な意味を持つと考えられるからである。松田は、高校の国語教科書についての数量的データをもとに、500例のテ形について動作性用言に接続するか、状態性用言に接続するかを調べた。それによれば、テ形による接続は、「て」の直前に位置する用言が動作性のもので、かつ、前件後件の主語が同一の場合が87%を占めた。このことから松田は、テ形の基本的用法は、前件の動作・作用が完了・成立し、次に現れる後件の動作・作用に連続していくことにあるとした。そして、この主要な用法からはずれるもの、すなわち、状態性用言に「て」が接続する場合は、「完了の意味が消去されることによって、この事態の肯定的確認の意味が色濃く現れてくる」のであり、「て」が完了の意味を持たないならば、時間的連続性ではなく、論理的、感覚的な意味における連続性」が現れることを指摘した。

テ形は、後ろにつながるものが基本的な働きであり、テ形の持つ意味は文脈によってかわる。テ形の用法を分類した研究はさまざまある。たとえば、仁田（2005）では、テ節の意味を<状態><手段・方法><継起><起因><並列>の五つに分けている。

- <状態>彼は、足を投げ出して、人の話を聞いていた。
<手段・方法>ぼくは、自転車に乗って、学校まで来た。

<継起>彼は、朝 6 時に起きて、7 時に家を出た。

<起因>僕は、妙にいらいらして眠れなかった。

<並列>兄は気が優しくて、弟は気が強い。

南 (1993) は、テ形の分類を目指したものではないが、従属節の分類によってテ形が四つ (「～テ 1」から「～テ 4」) に分かれることを示した。「～テ 1」には名称がないが、仁田の <様態> にあたり、「～テ 2」は <継起・並列>、「～テ 3」は <原因・理由> を表し、「～テ 4」は <提題のハ、陳述副詞などを含むもの> となっている。この 4 番目の用法は、仁田 (1995) (2005) にはあげられていないもので、次のようなものである。下の(2)が南の用例、(3)は、南がよってたつ国立国語研究所 (1963) があげているもので、ここでは、「から」「が」「し」等と同等レベルの従属句として扱われている。

(2) タブン A 社ハ今秋新機種ヲ発表スル予定デアリマシテ、他社ノ多クモオソラクソレニ対抗スル計画ヲ考エルコトデショウ。

(3) 冷房病ト イウ モノハ 一ツノ キミョウナ 表現デ ゴザイマシテ ソンナ 病気が アルトハ ワタクシハ 思イマセン。

三上 (1953) (1955) は、活用形の係る力、結ぶ力を考察し、連用形は結びに対する拘束力を持たない、すなわち、主節にどんな要素が来てもよいことを指摘している。

某所へ行ッテ、某氏に会

{	へバ・・・・
	ハウ
	ツタ

また、「手紙を書いて、何度も読み返した。」では、「読み返した」の持つ完了のテンスは、前件の「書いて」にも及び、一方、「書いて」の補語である「手紙を」は、連用形を通り抜けて主節の述語に係っている。このようにテ形は、三上 (1953) の用語を用いれば、陳述性が他の活用形にくらべて弱いということになる。ただし、三上 (1955) では、主節が打ち消しの場合、それはテ形の前節に及ばないことを下の(4)の例をあげて指摘している。

(4) 木を見て、森を見ない。

確かに(4)の場合、「木は見る」のであって、主節の打ち消しは前節に及ばない。しかし、次のような例にはそれは当てはまらない。

(5) タクシーに乗って、都心へ行かない。

(5)のようにテ形が<様態>を表すと、すなわち、連用修飾の関係に近くなると、主節の打ち消しは、前節に及ぶ。打ち消しに関しては、その効力が前節に及ぶ場合と及ばない場合とがあるが、それは文脈によって判断するしかない。

4 話し言葉における「テ形」

4.1 言い終わりのテ形

話し言葉でも、テ形は書き言葉と同じように用いられるが、さらに、話し言葉には、書き言葉にない、テ形が文末に来る用法がある。それは、話し言葉では、繰り返し、言いさし、言いよどみ、倒置が頻繁に起こり、さらには、整わない文や誤った文なども発話されるためである。現代日本語研究会(2002)は、「言いさし」を「相手のさえぎり、あるいは話者の自発的意志によって、発話が完結せず、言いかげで終わった場合」、「言いよどみ」を「発話途中でことばや表現につまんで、発話が完結しなかった場合」と定義している。また、国立国語研究所(1963)は、話し言葉の不整・誤用等における傾向を分類している。次に、言いさしと倒置の例を二つずつあげる。

- (6) A: 遺産?
B: ええ、少しまとまった額をね
A: ああ、じゃあそのうわさを聞いて
B: そうね。近所のことだから、樋口の耳にも入ったんでしょう。(模倣)
- (7) A: しげちゃん、あのルポはまだ書いてるのかい?
B: あんまり、気乗りしなくなっちゃって(模倣)
- (8) つい一昨日には、盗聴器を探し出す専門の業者に来てもらって、家中調べてもらいました。万が一ということがあるからって、主人が心配しましてね(模倣)
- (9) ミヨちゃん、しあわせねえ。いい時代に生まれてさ(寺内)

倒置については、国立国語研究所(1960)は、「間(ま)に無理がなく、後置成分の可逆性のもの」と定義している。しかし、次の例では、テ形に続く具体的な主節の文を考えにくい。こうしたものは、上にあげた言いさしや倒置の例とは異なる扱いをするのが妥当と思われる。

- (10) A: この頃、ちょっと元気ないみたいだけど、大丈夫?
B: ええ、何ともありませんけど?
A: ならいいんだけど、田中さんのことで悩んでいるのかと思っ
B: そんな・・・(中央)
- (11) <同窓会の記念写真を見ながら>
ウワア! 町田先生、すました顔して! ね、これ、道江さん。この人一番なの。・・・
(寺内)

繰り返し、言いさし、倒置などは、話し言葉によく見られる必然的な現象と言えるが、テ形による言い終わりの用法は、接続が基本の機能であるテ形が、あえてそこで言い終わっているという点に意味があると考えられる。

次に、実際の話し言葉の言語データをもとに、「テ形」の現れ方を観察することにする。

4.2 話し言葉のデータ

分析のデータとして、主に、現代日本語研究会『女性のことば・職場編』（1997）と『男性のことば・職場編』（2002）を用いた。この二つのデータは、それぞれ女性、男性が録音協力者となっているものだが、そこに登場する発話者が、女性、男性に限定されているわけではない。しかし、各データにおける発話者の性別の割合は次のようになっており、割合に偏りのあることがわかる。

表1 データにおける男性発話、女性発話の割合

	『女性のことば』	『男性のことば』
総データ	11,421 (100%)	11,099 (100%)
男性発話	2,361 (21%)	8,085 (73%)
女性発話	8,856 (75%)	2,745 (25%)

文末のテ形に関しては、性別によって出現頻度等に異なる傾向があることも予想されるので、二つのデータをあわせて用いることによって、男性と女性の発話数のバランスをとることにした。

本稿の分析の目的は、次の二つの点を調べることにある。

1. 発話末にあらわれる「テ形」と発話末以外の発話中にあらわれる「テ形」の数量的比較
2. 上の1. それぞれにおける動作性用言と状態性用言の割合

このデータにおいて、一発話とは次のように定義されている。

- (1) 意味のまとまりがある (2) ポーズがある (3) 他者のさえぎりが無い

話し言葉においては、文は書き言葉のように明確に区切れない。郡（1996）は、文の切れ目の判断に音声が必要な役割を果たしていることを実証的に示した。ここでは、文の切れ目の判断基準としてポーズの長さが決定的に重要なことが明示されている。本稿では、テ形の言い終わり用法を見ることを一つの目的としているが、郡の実験結果に鑑みて、その場合の文末とは、このデータでいう発話と考えて良いと判断する。そこで、以後、文末ではなく、発話末という用語を用いる。

調査した発話の総数とテ形の頻出数は次のようである。

表2 テ形の使用頻度

	『男性のことば』	『女性のことば』	合計
発話中のテ形	713 (75%)	599 (69%)	1,313 (72%)
発話末のテ形	233 (25%)	271 (31%)	504 (28%)
テ形合計	946 (100%)	870 (100%)	1,817 (100%)
データ総数	11,099	11,421	22,520

- テ形には、次のようなものは含めない。
 - 「ている」「てくる」「てみる」「ておく」「てある」等の複合動詞
 - 「てあげる」「てもらう」等の授受表現
 - 「てよって」「てについて」「てくらべて」等の助詞相当語化したもの
 - 引用の「て」ただし、「てと言って」類はテ形として扱う。
 - 「てはっきりて」「て急いで」「てあわてて」「てどうやって」「てどうして」等の副詞化した用法
 - 「て見ていい」「てうるさくてしょうがない」等の結合が強い表現
 - 「てですね」これはテ形に「て」が接続したものと考える。
 - 命令のテ形
 - 接続助詞や終助詞以外の助詞が接続するもの。
- テ形として扱ったものは「て」以外に次のような形式である。（「て」には動詞活用「て」も含まれる。）

発話中：て、てね、てさ、てねえ、てさあ、等

発話末：て、てね、てさ、てー、てねー、てさー、てさあ、てえ、て↑ 等
- 連体修飾に接続するテ形等は基本的に除くが、次のように読点が入って独立性が高いと考えられる場合は、ここで扱うテ形に数えた。

追加してて打ってて、とゆうことになると、
- 上の1. から3. の原則で集計したが、テ形に含めるべきか文脈が明らかでなく、判断できないものも若干あった。
- なお、テ形が、命令等ではなく、ここでの分析対象に該当するか否かは、文脈の中でしか判断し得ないため、一つ一つのデータを手作業で集計した。作業には慎重を期したが、調査者によって多少のずれが生じる可能性もある。

表2から、発話中に現れるテ形は、発話末の約2.6倍であることがわかる。これは次の例のように、テ形が連続して用いられる場合があることによる。

- (12) ま、ほんらいあの、お時間があれば、あの一、えー、文字を組んで、初校を出して、それで、いちおう赤字でてして、OK ですよて戻して、ま、とうぜん多少なりとも直しがありますね。（女性）

表2において、発話末のテ形は、発話中のテ形より数の上では少ない。しかし、書き言葉においては、文末にテ形がほとんど現れないことを考えると、かなりテ形が使われていると見ることもできる。また、男女差に関しては、男性にくらべて女性に発話末でのテ形の使用が若干多い可能性がみとれる。

4.3 テ形の接続

次に、松田（1985）に従って、テ形を動作性用言に接続するものと状態性用言に接続するものとに分ける。なお、松田のいう動作性、状態性という区別は、アスペクトの面からみており、ここでの状態性用言は、かなり限定的である。たとえば、松田では、次の例は、状態性用言として扱われている。

「付近の部落に散在する部隊も、同様の手段で食糧をあさっていて、われわれはしばしば出先で畑の先取権を争い、出動の距離と日数は長くなった。」

これは、松田が「動作性用言+テ」では、動作の完了の意味が確認できるかを基準にしているためである。本稿でも、松田の基準に準じ、状態性の用言には、「ある」「いる」「ている」、イ形容詞のほか、可能動詞、「ちがう」「似合う」「すぎる」「あたる（相当する）」「(値段が)する」「含む」等を含めるにとどめた。

話し言葉では、書き言葉に比べて筋道だった述べ方はせず、絶えず補足説明をしながら話を進めていくことから、分析に当たって、次のような予測をたてた。

- 予測：1. 話し言葉では、書き言葉に比べて状態性用言に接続するテ形が多いだろう。
2. 「継起」がテ形の基本的な用法であるなら、発話末の動作性用言に接続するテ形は、発話中に比べて少ないだろう。

次の表3に、テ形が動作性用言と状態性用言に接続する割合を示す。比較のために、松田の書き言葉データの結果も並べる。

表3から、松田の書き言葉のデータにくらべると、話し言葉では、状態性用言に接続するテ形の多いことがわかる。すなわち、話し言葉では、テ形が完了の意味を失い「論理的、感覚的な意味における連続性」が示されることも少なくない。しかし、話し言葉の発話中と発話末においては、動作性用言と状態性用言に接続するテ形の割合に大きな差はなかった。また、男性のことばデータと女性のことばデータの二つのデータ間にも、女性データの方が状態性用言に接続する割合が若干多いが、大きな差はみられない。

表3 テ形が接続する用言の種類

()内は%

	書き言葉	話し言葉	発話中			発話末		
			合計	男性	女性	小計	男性	女性
動作性用言	467 (93)	1,387 (76)	559 (78)	440 (73)	999 (76)	190 (82)	198 (73)	388 (77)
状態性用言	33 (7)	429 (24)	154 (22)	159 (27)	313 (24)	43 (18)	73 (27)	116 (23)
計	500 (100)	1,816 (100)	713 (100)	599 (100)	1,312 (100)	233 (100)	271 (100)	504 (100)

まず、書き言葉のデータにくらべて、話し言葉で状態性用言に接続するテ形が多いのは、次の二種類の用例の存在が大きい。

1. 「なくて」「ないで」という形容詞、名詞述語、動詞の否定形
2. 主題を提示するテ形

1. 「なくて」という形容詞、名詞述語の否定形の例は、次のようなものである。

- (13) やーだからね、感想を、立ってじゃなくてね、もちろん座ってですよ。(女性)
- (14) あたしアメリカで食べたケーキはあ、こんな、こん、こういうねえ、品のいい甘さじゃなくて、ただ甘い！(女性)

発話中において状態性用言に接続するテ形総数 313 例のうち、このタイプは 105 例と全体の 3 分の 1 を占めた。ここでは、テ形は対比の意味合いが強い。話し言葉では、話し手は会話の場で考えながら発話を続けるためにこうした用法が多くなるのだろう。

2. は、南や国立国語研究所が指摘していたもので、テ形が「提題」を表す。

- (15) あのー、すいません、あの、わたくしどもの、社長の、葬儀に関しましては、いろいろご心配をおかけいたしましたけども、えーと、先週の金曜日にですね、え、株主総会ございまして、えー、新社長はあのー、お連れ合いが、お、あ、奥さんが、はい、あのー、就任されることになりまして。(女性)
- (16) A: で、そーゆうこともあるんでー、あのー、できればちょっと、ぼくは入れていただきたいなと思ってるんですが、ただちょっと、これはあのー、契約係のほうに、あのー、電話して聞きましたらー、原則としては演習室にはクーラーは入れないことになってると。
B: うん。
A: ただあのー、特別な理由書があってー、そのー、理由がもつともだとゆうふうに見える場合はー、はいることもあり得(う)ると。
B: うん。(女性)

提題の用法の多くは、「ございまして」を含む「あって」類であるが、テ形の各発話データについて、それがいかなる用法であるかを判断するのは、基準が定めにくく難しい。その点で、概数と言わざるを得ないが、提題の用例は、発話中において状態性用言に接続するテ形総数 313 例のうち 31 例あった。

先の表 3 の結果から、話し言葉では、発話中と発話末とで、接続する動作性用言と状態性用言の割合に差がなかった。この点については次のような理由が考えられる。

1. 話し言葉では、倒置、言い差し等が頻繁に起こり、発話中と発話末という区別が明確でなく、それが大きな意味を持っていない。
2. テ形が<継起>の用法であっても、それが発話末に用いられると、その位置によって、<継起>よりも、<様態>等の意味をおびやすい。すなわち、実際には、動作性用言を用いながら、状態性用言を用いたような効果を生じている。

2. は、たとえば、次のような例である。

(17) A：なんであそこで温泉が出んの！

B：わかんない

A：も、家内なんかはまっちゃってるから、もう毎週行ってるよ。

B：うちのばあさん、毎日いってる。チケット買ってね。

A：ほー。(女性)

「チケット買って、毎日いってる。」なら、<継起>の意味が明らかだが、「毎日いってる、チケット買って。」になると、すなわち、生起順に出来事が並ばないと、発話末の「チケット買って。」は、動作性用言であっても<様態>の意味合いが強くなる。

4.4 発話末独自の表現

発話中と発話末とで、接続する動作性用言と状態性用言の割合には差がなかった。しかし、そこで用いられている動作性用言の内容を見てみると、述語の種類と出現頻度に若干の違いが見られる。

表 4 高頻度の動作性用言

	発話中	発話末
動作性用言総数	999	388
やりもらい	51	22
ちゃって／てしまっ	38	44
と思っ	36	30
とか言っ	18	33
と言っ	21	7
とか思っ	0	5
たりして	5	9

表 4 から、発話末において「ちゃって」「とか言っ」の多いことがわかる。発話末のテ形の総数は、発話中より少ないから、割合としてはかなり高いことになる。

- (18) A: あの、チケットどうするかって (B: ふーん) ゆう電話。わたしすっかり忘れてたよーとかいって。(女性)
- (19) A: 時計見てないわよー。
B: 見てたじゃない、ちらちら。
A: そろそろねー、とかいって。(女性)
- (20) A: 本屋行くとやっぱりねえ、その、魔がさしたように本買っちゃうんだよね。
B: あーそうそう。
A: やっぱしなんか、今買わないともう買えないかもしれない、と思うから。そいで、買ってしまって、いっぱいこうやって積まれて、あれもこれも読まくちゃ、とか思って。(女性)
- (21) A: 今日もね、テストをやらして出して、出した順番、名前の順に出さしてるから、返す時も名前の順にもうテストしたのが、置いてあるわけ、それもってきなさいったら、{名前} くんだけもたないで、自分の席に帰っちゃって。
B: 聞いてねえんだ、あれはな。(女性)
- (22) A: あ、3個あげてえ、じゃーこっちはあげる分として。こっちは我らが食べる分。
B: やー、毎日こんな、ショコラしてしまっ。(女性)

これらは、話し手の判断を示す表現だから、発話末に現れるのは当然な面もある。だが、それに加えて、用例(18)(19)の「とか言って。」は、「って言うて。」と言うことも可能なわけで、それを「とか言うて。」と表現したのには、話し手の、事態をぼやかして表現したい心理が働いていると考えられる。これは、聞き手目当ての終助詞とは異なるものだが、ことがらに対する態度とも異なり、曖昧な態度をとることによって聞き手への配慮、もしくは、責任を回避する意図を示しているという点で、終助詞に近い側面がある。

「とかいって」類の総数は、33例だが、その男女別使用頻度の内訳を見てみると、男性5例、女性28例と女性の使用頻度が高い。ちなみに、発話中においては、男性1例、女性17例であった。もとより「とか言うて」の使用実態は、「とか言う」全体の様々な現れ方から考察されるべきものであり、また、ここでの数も傾向を見るにとどめるべきものだが、使用に男女差があることは、終助詞的なモーダルな要素の存在を伺わせる。また、数の上では多くなかったが、次のような「たりして」という表現も、同じような働きをするものと言える。

- (23) A: えー、えー、できてないじゃん。あたしてつきりいやーまー、確かめなかったわたしが悪いんですけどー。<笑い>確かめなかったわた、わたしが悪いんですけど、できてないじゃん。あいけねー。
B: もしかしてAさんが作るはずだと思われてたりして。
A: いや、そ、うーうーうーうーうーうー、ほんとかなー。(男性)

- (24) A : 特別、今日は〔名前〕さんがいるから。<笑い・複>とかいたりして。
B : そんなことないけど。(女性)

また、表 4 から、「ちゃって」が発話末に多く用いられていることがわかる。今回のデータにはなかったが、「ちゃって」と似た表現に「やがって」がある。これらは、下の(27)(28)の形容詞のテ形で言い終わる場合と同じように、感情の起因を示し、その結果を表現しないことで、かえって表現効果を高める働きをしている。もし、主節が表現されれば、文としては主節に重点が行き、その分テ節の内容は弱められることになる。

- (25) A : オレ、油もの食うと眠くなるんだよな
B : 嫌なら食うな。男のくせにおかずの文句言いやがって (寺内)
- (26) このやろ！ だから必死にフランス料理に挑戦してたのか！ ふざけやがって！
(美味)
- (27) A : 大丈夫ですか
B : べつに大丈夫だよ
A : 俺は頭にきちまって、夕飯がまずくって (模倣)
- (28) 本当に嘘っぱちばかりなんだけど、証拠をあげて言い返すこともできないし、悔しくて、悔しくて (模倣)

5 まとめ

本稿では、話し言葉におけるテ形の使われ方を見た。話し言葉では、書き言葉にくらべて状態性用言に接続するテ形が多い。この理由の一つは、話し言葉に、テ形をもちいた提題用法や、否定のテ形による並列用法が多いことによる。また、書き言葉では、テ形が文末に来ることはほとんどないが、話し言葉では、発話末にも用いられる。

- (29) A : 夫婦げんか↑
B : 違う。
A : じゃなくて。(女性)

テ形の基本的な働きは、文を連続させていくことにある。それは、上のような話し言葉の発話末の用法にも明らかに示されている。しかし、発話末に用いられるテ形をみると、「とか言って」「ちゃって」など、モーダルな要素を持つ表現も多く、ぼやかしたあいまいな言い方、あるいは、具体的な感情を起因とする結果を表現せず、聞き手に推測させることで、表現効果を高めるのに利用されていることがわかる。

日本語教育において、教科書のテキストには、自然な会話文が使われるようになって久し

い。しかし、文法については、依然として書き言葉が中心に記述されている。そのため、学習者は、文法的に誤りではないが、日本人はそうは言わないという自然さに欠ける文を作り出す。本稿で試みた話し言葉のこうした分析の積み上げが、話し言葉の文法の構築につながっていくものと考えている。

参考文献

- 日下部文夫(1956)「口語動詞の活用の考え方」『岡山大学法文学部学術紀要』8
現代日本語研究会編(1997)『女性のことば・職場編』ひつじ書房
現代日本語研究会編(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房
三上章(1953)『現代語法序説』くろしお出版
三上章(1955)『現代語法新説』くろしお出版
郡史郎(1996)「音声の特徴からみた文」『日本語学』Vol.15 8月 明治書院
仁田義雄(1995)「シテ形接続をめぐって」『複文の研究(上)』くろしお出版
仁田義雄(2005)「テ節・中止節」『新版 日本語教育事典』大修館書店
白川博之(1990)「「テ形」による言いさしの文について」『広島大学日本語教育学科紀要』
創刊号
国立国語研究所(1960)『話し言葉の文型(1) 一対話資料による研究一』
国立国語研究所(1963)『話し言葉の文型(2) 一独話資料による研究一』
松田剛史(1985)「「て」、連用形、「と」の分布」『大谷女子大國文』15
南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

用例出典

- 女性：現代日本語研究会編(1997)『女性のことば・職場編』ひつじ書房
男性：現代日本語研究会編(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房
美味：雁屋哲(2000)『美味しんぼ』73 小学館
模倣：宮部みゆき(2005)『模倣犯』新潮社
中央：内田康夫(2005)『中央構造帯』講談社
寺内：向田邦子(1983)『寺内貫太郎一家』新潮社